

〔一目千軒〕廓之起

往昔天正十七年、原三郎左衛門林又一郎といひし浪人に、傾城町の事許命されて、始めて冷泉万里小路の上に、一の廓をひらきし也、武門より出し人、これを始むるゆへにや、世人新屋敷とぞ呼びけり、くるわといへるも相當せる歟、兩士女郎屋の長となるはじまり也、則原氏は今の島原上の町西南角、桔梗屋八右衛門祖也、是相續して今の桔梗屋治介家筋なり、又林氏は下の町西南角の藤屋八郎左衛門屋敷今ハ此と素人の家也、其跡也、林氏それより寛文年中に大坂へ引越、今の大坂新町扇屋是也、

舊地之考

開け始りし万里小路冷泉は、本東山殿御酒宴の地也、今の押小路柳の馬場東へ入町を橘町と云、昔橘屋といへる揚屋の居たる跡なりとぞ、天正十七年より、慶長六年迄、十三年に成、是最初の地也、然るに京の町繁昌し、段々建續けるにより、慶長七年、六條へ移されける、今の室町新町西洞院の間、五條橋通下ル二町四方に構へ有、寛永十七年迄、三十九年に成、新町五條下ル町當所揚屋町すみ屋徳右衛門所持の家、今に有、是三筋町の遺所也、其のち寛永十八年、今の朱雀へ移さる、今の島原百十七年に成、始より今の土地にて三度目也、寶曆七年迄、合百六十九年に成、

廓總名之事

冷泉今の夷河通也ひらけ始まりしときは、新屋敷といひける處に、万里の小路の上今の柳馬場なりに、やなぎの樹あまた有、出口の茶屋などは、柳の樹の間々に暖簾かけ、床几を出し居ける、柳林を伐ひらき、一かまへの町となりしより、世人柳町と唱へける、夫より六條へ引移されしとき、廓のかまへの内に小路三つ有しにより、此時は三筋町と申ならはしける、又今島原とよぶは、肥前の島原さはがしかりし時節に、六條三筋町を、今の朱雀野に引たる故、異名を斯は付たり、古名は新屋敷と